

第7話 “大河” と呼ばれるドラマの誕生



第1作は「大河ドラマ」ではなく、「大型娯楽時代劇」と呼ばれていた。



「大河ドラマ」という呼びかたは、第2作「赤穂浪士」から。

元禄の不安を背景に、李淳「赤穂浪士」スタート



赤穂浪士

しかも、NHKが名づけたわけではなかった。

人の生涯を描く大河小説にならって、読売新聞が呼び始めたのだった。

第3作は、人気を博した「太閤記」。

高度経済成長の出世物語

戦乱収束を願う安定成長の物語

バブル崩壊後に素顔の秀吉を描く物語

緒形拳 第3作「太閤記」(1965)

西田敏行 第19作「おんな太閤記」(1981)

竹中直人 第35作「秀吉」(1996)

その後も描かれる秀吉だが大河ドラマは時代を映し出す鏡となった。

第4作以降も時代劇路線を貫いたが大きな転機が訪れる。

1980年代半ばには歴史ドラマをやり尽くし、近・現代に題材を求めた。

第24作「いのち」(1986) 三田佳子

第23作「春の波濤」(1985) 松坂慶子

第22作「山河燃ゆ」(1984) 松本幸四郎

いのち

春の波濤

山河燃ゆ

終戦から戦後40年を生き抜いた女医・磐田未希

明治から大正に海外でも活躍した日本の女優第一号・川上貞奴

昭和初期から太平洋戦争を生きた日系アメリカ人二世・天羽兄弟

しかし、大型時代劇を望む声は根強く、第25作は伊達政宗を描く。

渡辺謙

第25作「独眼竜政宗」(1987)

大河ドラマ歴代最高となる平均視聴率39.8%を記録した。

政 独 竜 政 宗



そして、1年間という放送期間を変えた時期もあった。

6か月

9か月

9か月

第31作 東山紀之 「琉球の風」(1993年1月~6月)

第32作 「炎立つ」(1993年7月~1994年3月) 渡辺謙

第33作 三田佳子 「花の乱」(1994年4月~12月)

琉球の風

炎立つ

花の乱

大河ドラマも常に変革を求められているのである。

最近では女性が主人公になることが多くなっている。

綾瀬はるか 第52作「八重の桜」(2013)

上野樹里 第50作「江」(2011)

仲間由紀恵 第45作「功名が辻」(2006)

井上真央 第54作「花燃ゆ」(2015)

宮崎あおい 第47作「篤姫」(2008)

八重の桜

江

功名が辻

篤姫

花燃ゆ

より多くの人たちに見てもらいたいと今も変化を続けているのである。